



昨年秋、地元の方にガイドしていただいて徳佐駅近くから県境の野坂峠までを歩いた。桜の季節ではなかったためだろうか、この時は徳佐八幡宮には立ち寄りなかった。シダレザクラの名所と書いたが、たぶん私はここには一度も行っていないような気がするから実にいい加減なものである。いずれ触れることになると思うが、徳佐と言えば「十種ヶ峰」、東鳳翔山同様に「我が心の山」をまずは思い出す。学生の頃は、ノートに色々な思いを書きながってたくせに日記の類はまるで書いていないため、何時何時どうしたというような行動を辿る術がない。しかし、山口駅からSL(当時はSLなどとは言わずに単に汽車と言った)に乗って徳佐駅に向かい、駅から直接歩き始めて登ったものである。神角コースよりも東側の稜線を詰めていくコースが強く印象に残っている。積雪期にもワカンジキを装着して膝上まである雪の中を交代でラッセルしながら登っていた。そのため、八幡宮のシダレザクラよりも、駅の西側に聳えたつ見事な山容の十種ヶ峰を思い出すのである。



イラストでたどる石州街道 27 徳佐八幡宮シダレザクラ

大内氏が宇佐八幡宮より勧進したと伝わる徳佐八幡宮。春ともなれば西日本随一と言われるシダレザクラが見事に咲き誇る。370本の参道の両側には104本の桜があり、そのうち77本がシダレザクラである。この桜は文政8年(1825)庄屋・椿正直らが大阪から苗木を取り寄せて植栽したのが始まりと伝わり、昭和9年には天然記念物に指定された。参道入口に残る石標はそれを記念したものである。その後一旦枯死したが、地元民の懸命の努力で復活し「徳佐サクラ」として令和4年に再度指定されている。

山口でサクラと言えば、まず一の坂川を思い浮かべるが、シダレザクラならば徳佐の右に出るものはないと言えるだろう。

文イラスト 古谷眞之助

いやいや、シダレザクラの話だった。徳佐八幡宮のシダレザクラは、毎年見に行こうと思いつつも、ついつい機会を逸している。それに桜と言えば、ソメイヨシノという思いが強いかもしれない。そう言えば、メキシコ駐在時に日本人が「メキシコの桜」と呼んでいる花があることを教えてもらった。ハカランダと呼ばれる花木がそれで、紫色の花が桜のように見事に咲く。右写真。この花は、メキシコにも桜を、と頼まれた日本人庭師がさすがに気候的に無理と判断して代わりにブラジル産のハカランダを勧め、それが国中に広がったのだという。写真から、この花がメキシコ人にことのほか愛されていることがお分かりいただけるだろう。ついでに言うておくと、身近なコスモスもダリアもメキシコが原産地である。(2024.6.26 記)



ついでに言うておくと、身近なコスモスもダリアもメキシコが原産地である。(2024.6.26 記)